

伊達市立月舘中学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：職場体験活動からジェンダーについて考える

学 年：第2学年

実施状況

<ねらい>

職場体験活動を行った職業について、男女の区別があるのかを考えることを通して、ジェンダーについて正しい認識を持つことができる。

<授業内容>

職場体験活動で体験した15種類の仕事について、男女の区別があるのか、それともどちらでもできる仕事なのか、理由も含めて考えさせ、全体場で話し合わせた。特に、男女の区別があると思う理由やどちらでもできると考えた理由について話し合うことを通して、固定的な役割分担にとらわれることなく、自分らしさを発揮することの大切さについて気づかせ、ジェンダーについての正しい認識を持たせた。

生徒の感想

- ・ 自分の好きなことを仕事にするのが職業だと思う。そこに男女の差別は関係ないと思う。また、男女差別でその人のせっかく伸びる芽を摘んでしまってはもったいない。その人の個性を尊重することが大切だと思う。
- ・ 自分のやりたい仕事や好きなものになれる社会なので、自分の夢を目指したいと思いました。また、男女別々ではない社会だと改めて感じました。
- ・ 憲法では「職業選択の自由」が保障されているし、「これは男の仕事」「これは女がやるものだ」と言うのはおかしい。これからの社会にはこんな空気が広まってほしいと思った。

参観者の感想

- ・ 男女の役割や仕事について、見直す良いきっかけができたと思います。伸びやかに自分がやりたい仕事をみつけてほしいです。
- ・ 職業観に関する指導は1年生の頃から計画的に行うことが大切であると感じました。
- ・ 世の中の流れが学校に生かされ、学べることが大変素晴らしいと感じました。
- ・ 日本の枠にとらわれず、世界を意識し、日本人として立派な人格育成には必要な時間であると考えさせられました。

指導者の感想

男女の区別があると答えた職業は予想の範囲であった。しかし、指導者が考えるよりも、生徒の方が職業に対して柔軟な考え方をしていると思った。生徒が男女の区別があるとした職業は、実生活の中での経験が影響しており、ジェンダーにとらわれない考え方を社会全体に広げていくことで、生徒たちのものの見方や考え方は変化していくように思う。むしろ、指導者側（大人）がこれまでの古い固定観念にとらわれていることもあるため、男女共同参画社会の実現に向けたものの見方や考え方に变えていく必要があると思う。そして、従来の「男だから」「女だから」という考えでなく、個の特性を活かしつつ、互いに協力し合い、互いを尊重し合えるような考え方ができる生徒を育成していくことが大切ではないかと思った。